

第3回 開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2022 年 3 月 22 日（火）13：00～15：00
2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 3 階 S303 教室
(オンラインでの参加者は Teams にて参加)
3. 出席者（来校）：徳田賢二委員長、唐木宏一委員
出席者（オンライン）：向正道委員、武田修美委員、田中豊委員
事務局：遠田孝之 学務部課長兼社会連携推進課課長、今井泰子学務課職員
欠席者：葉葦正幸委員、内藤晃子委員

4. 議 事：

徳田委員長より

今年 1 月より学部長に就任致しました。また、新委員として向先生に加わって頂きました。

1) 報告事項

(1) 2021 年度 後期教育課程に関する報告【資料 2～10 (P3～P45)】

事務局遠田より報告。

●新任の向先生より自己紹介：徳田先生が学部長になったため、今回より参加をさせていただきます。

●学事歴の変更について。資料 2 参照。(赤字部分が変更)

・1 月のコロナ感染拡大により変更を行った。1/11～1/14 の間を休講とし、その後、1/17～オンラインにて、すべての授業を行った。また、2/7～の試験期間もすべてレポートにての対応を行った。学生も数名の感染者が出たが、クラスターにはならず、今学期を終えることができた。

●10 月に大学祭を開催。学生：129 名、保護者：51 名、教員：68 名、他：3 名の合計 261 名の来場があった。3 学部が離れている大学になるので、このような一同に会するはとても貴重なものになった専律会を中心として無事に終えることができた。

●本学部は本年度、特に産官学を重要視した授業を展開してきた。年間を通して、業界の第一線で活躍されている様々な方からのお話を頂くことができた。学生にとって、実践的でいろいろな角度からの見方を学ぶことができた。(トップランナー研究、現代産業論、現代企業論など)

●「開志コラボセミナー」は外部の方の多くの参加を頂いた。すべてオンライン形式ということで、実施形式についてはさまざまな意見もあるが、結果としては学校の知名度を上げることにとてもつながっていると感じる。

●ビジネスアイデアコンテストでグランプリを取った学生がこの 3 月に起業したことも合わせて報告します。

●就職の活動拠点としてキャリアセンターもスタートし、新 3 年生の就職活動に向けての取り組みを行っていく。

●臨地実務実習について

苦戦をしているところもあるが、多くの企業の方にご協力を頂き、新規商品開発・販売実習Ⅰ／Ⅱについては受入人数達成率 100%以上となっている。

これから学生の希望調査を行っていくが、一部、前提科目の単位を落としてしまったために履修ができない学生がいる。

企業内実習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲについてはまだ達成率が 20%台となっており、返答待ちの企業もあるが、まだまだご賛同頂けない企業様も多く、苦戦をしている状況。委員の皆様にもご協力を賜りたい。

・新規商品開発・販売実習Ⅰの振り返り（前期）

多くのプラスの意見を頂いている。その中でも企業様の負担が大きい部分やゴールが明確ではないなど、改善を求める声も挙がった。学生への企業研究を望む声もあり。

Camトレ！が使いにくいシステムだったため、次回の実習は使わずに行う予定。

・企業内実習Ⅰの振り返り（後期）

グループ内の協力企業以外の、池田代表等からの紹介でグループ企業以外に実習を行かせて頂いたこともあり、厳しい意見も多かった。

事前の学生指導・ビジネスマナーの指導・実習に取り組む意欲／態度など、課題も上がった。

・企業内実習Ⅱの振り返り

Ⅰ同様に、外部の企業に多くご協力を頂いた。こちらも厳しい意見が多かった。

これらのことを踏まえて、全学生へのビジネスマナー研修を実施することを決めた。実習を受け入れて頂いた（株）リーフランドの宮本様にご協力を頂いて行う予定。

学生たちに意識づけをした上で次年度へ取り組んでいきたい。

（2）2022 年度 教育課程における運営について【資料 11～資料 12（P46～P49）】

- ・今年度は早めに成績評価を出せるように、2月上旬で試験が終了するようになっている。
- ・遠方の企業内実習や特別講義を長期休暇中に集中講座として開講していくことを検討している。
- ・時間割については資料の通り。

（3）カリキュラム改訂について【資料 13（P50）】

・向委員：カリキュラム改定プロセスについて：各人材像を職種・到達レベルごとに展開をする。それをした時にたりないもの・課題を抽出してシラバスを見直していく。

ポイントとしては3つの人材像を具体化していくこと。

また、現状、管理会計や企業のオペレーションを学ぶ科目などの基礎的な部分が抜けているのでそれも踏まえてカリキュラム改訂を行っていく。

(4) キャリアセンター活動計画【資料 14 (P51)】

- ・次年度は1週から2週に一回のペースでセミナーを実施予定。
- ・夏前はインターンシップに向けての準備、夏休み中の集中講座で一般常識などの試験対策
- ・夏休み明けからは面談と履歴書作成にむけての準備
- ・北畑学長からは実務家教員からも紹介を受けての就職活動についても提案をもらっている

2) 審議事項

(1) 2021 年度 後期教育課程に関する課題と評価

報告事項を受け、以下意見交換を行った。

●徳田委員長より補足

実習については、企業の方より、基本的なマナーや知識が不足している学生が見られるとの指摘を受けている。これは日々の講義にもつながるものがあり、教員の中でも密に意見交換を行っており、教員も意識して取り組んでいく。企業様の意見として、改善点等あればご指摘頂きたい。

・武田委員：受け入れをして、率直な感想としてはとてもいい経験になった。企業として、これから社会人になる人がどのような考えをしているのかなど勉強になった。とてもいい学生が来てくれていたと思った。あくまで、「学生」を受け入れているという認識。企業間での認識をそろえていくことができるといいのでは？受け入れるのはあくまで「学生」であり、学生と交わることの価値を企業としてもどこまで捻出していけるかも大事だと思う。何をどこまで指導するのかを合わせるといいと思う。

・徳田委員長：そう言っただけだととてもありがたい。しかし、積極的な学生がいる一方で、企業の方にご迷惑をお掛けしている学生がいることも事実であり、とても心苦しい。教育的な価値を共有できることが大事なことだと感じている。

・田中委員：ここ数年は東京に来ていただくことは難しい状況ではあったが、インターンシップを受け入れた経験からすると、コピーすらできないような、何も知らない状態で来るという認識でいた方がいい。ただ、開志専門職大学としては、他の大学よりは社会人に必要なマナーや態度などを日々の教育の中で早く知ることができる大学だと思うので、それを早く教えることが学生のためにもなるのではないかな。

・徳田委員長：本学には実務家教員が多くいるので、そのような先生の協力も得て指導をしていきたい。

・唐木委員：大学院大学の経験を踏まえての話。MBAを取る学校ではあるが、半数以上の学生がなにも基礎知識がない状態で入学してくる。この知識を補うために正課の時間を使うことはできないので、単位外授業を設けて行っている。(NSGグループの専門学校教員が指導)それに置き換えるとこのビジネスマナー研修はそのような意味があると思っている。

・向委員：企業内での人事関連を担当することが多い。その中で感じることはやはりマナーの基礎は必要。ただ、知識を持ってもそれを使いこなしていない学生が多い。

複雑なことをしていても人には伝わらない。そのため、誰もが知っているようなフレームワークを使って、復習をしてから企業に行くようにすると思う。

・徳田委員長：企業内実習の振り返り会に参加をして、積極性のない学生が気になった。どうやったら学生のモチベーションを持たせ、上げるかが重要だと思った。企業としてはその点はどう思うか？

・武田委員：横浜の大学で受け持った科目で履修者が100名を超えた。そうなった時には意欲のない学

生の方が目立ってしまう。それをどうやってモチベーションを上げるかが課題。

やる気がない学生、ついていけない学生はそれでいい。ただし、その学生たちがやる気になった時、ついて来ようとする時にいられる場所が大事。学生の興味がどこにあるのかを模索することを最初の授業でやりたい。事前にどのようなマインドセットがされて、それをどう保っていくかが大事。事前にその説明をしっかりと、その価値やメリットなども理解して取り組ませることが大事。

・田中委員：この大学は近くに経営者も多くいる環境なので、その人の好きなモノや価値観にあったやり方や生き方を、教員の実体験を通じて伝えてあげることによってやる気スイッチを押すことができるのではないか。ただし、修正ができない学生も中にはいるので、全員を同じようにやる気にさせることは難しいと思う。

・徳田委員長：なんのために実習に行くのかを認識させることが必要だと感じている。『アントレプレナーシップ』をきちんと学生へ植え付けることを本学では大事にしている。そのために必要なことの意見を聞かせて頂いた。

『退学抑止について』

・退学3名、休学2名

その他、他大学への編入が1名、精神疾患が理由の退学が1名。合わせると5名の退学になる。今年度退学者が多かった理由として、精神疾患を抱えている学生が入学後に多数発覚したこと。カウンセラーを含めて対策を検討中。

・田中委員：他大学と比べてどうか？

・遠田：割合としては低くはない数値。グループ全体としては退学率2%以内を目標としているが、まだそれには届かない。文科省からも一つの目安として見られているので、安易な退学を出さないように今後も退学抑止に努めていきたい。

(2) 2022年度 教育課程案における課題と評価

・徳田委員長：3年次のカリキュラムのボリュームがかなり大きく、少し心配になる。

・唐木委員：3年生までにできることをしっかりと詰めてやって、4年生ではそれをアウトプットしてまとめて、足りないものに気付いて、それを自らつけ足していく期間。というのが、最初カリキュラムを作った経緯。

・徳田委員長：今、向先生を中心に1つずつの教科がどんなスキル・知識を提供しているのかを明確化していく作業をしているとこと。各委員の方からもこのような授業が必要じゃないか、などご意見があればぜひ伺いたい。

・武田委員：授業の中ではどう企業と関わるか、社会に出てどうするのかを多く伝えていきたい。実習前の動機付け（心づもり）をすることがとても大事だと思う。ビジネスモデルにつながっていくような、精神的な部分に訴えかけられるような授業があってもいいと思う。

・徳田委員長：他の大学では1年次からゼミがある大学もある。クラスを細分化して小さなグループで指導していくことで各学生に合ったものを見つけていくことができるようになっていく。本学では今はその部分ができる授業がないので、個々の授業で行っていくことになってしまっている。

・田中委員:実際に社会に出ると、正解がないことが多い。学校の授業では正解があることを教えることが多いと思うが、それだけでなく、プレゼンをどううまくするか（ものを売るだけでなく、自分の売り込み方など）などの実践的なことをもっと取り入れていくことができたらいと思う。

・唐木委員:3つの人材像を作る時に求められているものはそんなに変わらない。学生自身がここで何を徳たいのか?を認識することで結果が変わってくるのではないかと。例えば1年生からゼミ方式を取ってやっていくのは教員にとっては大変だし、カリキュラムも考え直さなければならないが、学生にとっては恵まれた環境になる。今はこの学校では現実的ではないことも多いので、ゼミ以外でも学生1人1人がなにを目的にここにきているかを考える時間を持たせることが必要だと思う。

大学院大学ではフルオンラインでの授業を行った結果、その意識づけがうまくできず、事業計画や卒業論文の出来が良くなかったことや、課題未提出や欠席者が多いなど、悪い結果が出た。

・向委員:学生起業について 起業をしたいが、授業が多すぎて起業に向けての準備活動ができないことが問題になっている。むしろ学校の授業のために起業をやめさせるような状況にもなりかねないことになっている。

・徳田委員長:今のカリキュラムは企業に就職をする人向けにできているような感じもある。特に企業内実習は、起業組と就職組で分けた方がいいのではないかと。自分の会社での活動を企業内実習に置き換えるなど。

・唐木委員:文科省への申請としては難しいと思う。ただ、大学院大学での実績であれば、県内に4人株式会社を作っている。その人たちからは自分で会社を作って、初めて、学問として言われていたことと、その先にあるものの違いを知ることができたという意見がある。なので、何かの形で実現させてもいいのではないかと。

・田中委員:企業としては学校側が事情によっては欠席があることがやむなしとする覚悟が必要でもあるかもしれない。

(3) 産業界及び地域社会との連携による授業展開について

・徳田委員長:次年度、開学3年目を迎えるにあたって、産業界及び地域社会との連携についてご意見を頂きたい。

・唐木委員:非常に難しい問題。大学院大学では地域の企業と連携しながら課題に取り組むなどをしている。開志では、企業内実習で面白い課題があれば、それを講義のテーマとして取り込んで授業内でやっていくなどだろうか。

・武田委員:企業としてもそのような機会は望んでいる。うまく利害が一致するものはあると思う。企業に来校してもらい、普段の学校の姿を見てもらったりすることでもヒントがうまれるのではないかと。

・田中委員:各年代に起業家教育に興味を持っている人は多い。その方たちに大学に集まってもらって、そこで意見交換をしてみるのはいかがでしょうか。その人脈については協力できることもたくさんあるので声をかけて欲しい。

先生方がとても学生のことを思って教育されていることが良くわかって、とても感銘を受けた。

このような場に参加させてもらってとても光栄に思う。

5. 資料

- 【資料 1】教育課程連携協議会 構成員名簿
- 【資料 2】開志専門職大学 2021 学事暦 4 学期改訂版
- 【資料 3】事業創造学部 教育課程等の概要
- 【資料 4】事業創造学部 授業科目の概要
- 【資料 5】事業創造学部 カリキュラム体系図
- 【資料 6】事業創造学部運営報告【2021】
- 【資料 7】臨地実務実習シラバス
- 【資料 8】企業受入状況_資料
- 【資料 9】臨地実務実習 振り返り会議事録
- 【資料 10】新 1 年生ビジネスマナーの基礎研修
- 【資料 11】開志専門職大学 2022 学事暦
- 【資料 12】事業創造_2022 年度授業時間割確定版
- 【資料 13】カリキュラム改定プロセス（案）
- 【資料 14】キャリアセンター年間予定（案）

以上